

# 報告書抄録

ふりがな	よこえいせき							
書名	横江遺跡 I							
シリーズ名	滋賀県文化財保護協会調査報告							
シリーズ番号	第 12 集							
編著者名	小林裕季・辻川哲朗・宮村誠二							
編集機関	公益財団法人滋賀県文化財保護協会							
所在地	滋賀県大津市瀬田南大萱町 1732-2							
発行年月	令和 8 年(2026年) 3 月							
ふりがな	ふりがな	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
よこえいせき 横江遺跡	しかけん 滋賀県 もりやまし 守山市 よこえちょう 横江町	252077	207-056	35° 03' 13"	135° 58' 04"	20230403 ～ 20231107	6,701.1㎡	(仮称) 守山市横江 地先工業団 地開発計画
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
横江遺跡	—	弥生時代		—		弥生土器		
	集落	古墳時代		溝・土坑		土師器・須恵器		
	—	奈良時代 ～ 平安時代前期		—		土師器・須恵器		
	集落	平安時代末 ～ 鎌倉時代		掘立柱建物・ 溝・河川		土師器・須恵器・緑釉 陶器・灰釉陶器・黒色 土器・国産陶器・輸入 磁器		
要約	<p>古墳時代を通して用排水路としての機能が維持されたと考えられる複数の溝群や土坑等の遺構を検出した。また、平安時代末から鎌倉時代にかけての掘立柱建物や遺物を多量に包含する河川等を検出した。また、これらの遺構に伴って土師器や須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、黒色土器、国産陶器、輸入磁器などの遺物が出土した。とりわけ遺物が多量に出土した平安時代末から鎌倉時代の河川は、調査地北東部で南北に分岐するものと考えられ、未調査地であるその内部に集落が展開していくことが想定される。</p> <p>また、今回の調査地点は、過去に広範囲にわたる調査が実施された地点の南東隣接地に位置する。過去の調査成果では、鎌倉時代から室町時代を中心時期とする中世集落が良好な状況でみつかり、近江における中世集落を考える上での指標遺跡として知られている。今回の調査成果や周辺での成果を踏まえて考えることで、集落域の広がりや時期的な変遷、さらには遺跡のより具体的な様相が明らかとなっていく成果が得られた。</p>							